きほく通信

第98号
令和6年
3月5日
発行

難病
患者家族会
きほく

【会　長】神森 和子
紀の川市中三谷
【相談室】080-7456-4940
【事務局】〒649-6612 紀の川市北涌371
森田方 TEL080-7456-4940

3 March

国会請願署名集約

昨秋より取り組んで参りました国会請願署名を和歌山県難病連を通じて令和6年通常国会に提出するため、集約しました。

当会きほくの署名数は495筆で、このうち165筆が日本精武会の署名で、その他が事務局扱いです。また募金は63，479で、このうち日本精武会が31，479円でした。また個人の赤田様から30，000円の特別寄付をいただきました。

きほく結成以来、長く署名募金にご協力いただいている日本精武会からは今年も和歌山教室役員の大西様と月森様が直接事務局に届けてくださいました。（写真上）

これほど長くご協力をいただいていると、新しく入会された会員からは「なぜ難病患者に協力してるんですか？」と聞かれることがあるといい、そんなときは「難病患者会とは古いお付き合いですが、会員のなかに難病患者さんが居られたことや、自分たちが演舞することによって元気になってもらいたいし、元気に活動できることに感謝することも大事と思うから…」とお話をされるそうです。

事務局森田から、会員を代表して深く感謝申し上げました。

小さな患者会が再スタート

令和6年2月26日
【パーキンソン病友の会和歌山県支部】

私が副支部長を務めているパーキンソン病友の会和歌山県支部は長く休止することを余儀なくされています。

難病患者会においてこれは全国的な問題でもあるのですが、コロナ禍もさることながら、役員もそして会員さんも病状の進行と高齢化は避けて通ることができないからです。当然、活動も滞りがちになっているのが現状でもあります。

そんな中でも和歌山市ブロックが再スタートしました。

今回、和歌山県支部事務局の大塚様があらためてよびかけてくれました。

患者さんは少人数でもやはりお話がしたいし、薬のことも聞きたいのです。

私の話が聞きたいと大塚様に言われ、少しお話しさせていただきました。

・患者同士が話すことの大切さ…
・災害時の対応…
・患者にとっての普通とは…
・当事者同士の寄り添い…等々

お話のあとは、長くパーキンソン病の妻の看護経験のある私に、薬のこと症状のことなど熱心に聞かれました。

そして次の集会にも是非来て下さいと言われました。

この集会では、つくづく患者同士の話し合いの大切さ、いわゆるピアカウンセリングの必要性を強く感じました。

能登地震被災者慰霊護摩

事務局　森田良恒

事務局長の自坊不動寺では能登半島地震被災者慰霊の為の護摩焚き法要を1月と2月の28日不動明王縁日に行いました。またあわせて支援募金活動も実施しました。

法話で仏教用語の「同慈同悲」を引用し「当事者と同じ気持ちで悲しむことはできますか。ああ自分でなくてよかった、と思うところで止まっていませんか。自分ができる形で寄り添うことが大切」という主旨の話をして募金を呼びかけました。

この護摩焚き法要では合計募金額　84，673円の浄財を毎日新聞社会事業団を通じて寄付させていただきました。